

夢のつばさプロジェクト 2014年秋の交流会 学生報告

【日程】2014年10月19日

【場所】榴ヶ岡公園、仙台市生涯学習支援センター

【参加者】こども17人（小学生11人、中高生6人）、学生24人、大人スタッフ3人

◎2014秋の交流会について

今年度大人スタッフの皆様のご協力のもと、初めての試みとして夢のつばさプロジェクト秋の交流会を開催できる運びとなりました。仙台での交流会は3回目となりこどもたちの参加数も着実に増え、今回は郡山や盛岡から参加してくれたこどもたちもいました。天候にも恵まれ、外遊びや、年齢男女関係なく交流を深めることのできた室内レクリエーションなど、冬のキャンプにもつながるようなイベントとなったのではないかと思います。また春の交流会に続いて保護者の皆様との交流会という貴重な機会を継続して設けることができました。

今後も春、秋の交流会を継続していくことにより、夏、冬キャンプのように成熟させていきたいと考えています。

◎秋の交流会活動概要

【タイムスケジュール】

10:00	仙台駅集合、電車移動
10:30	榴ヶ岡公園到着
10:30～11:00	公園にて自由遊び(サッカー、フリスビー、シャボン玉)
11:00	公園での全体レク(三つ巴しっぽとり)
12:00	昼食
昼食後～13:15	自由遊び
13:15～13:45	徒歩移動
13:45～14:45	室内全体レク(バランスニューズペーパー)
14:45～15:50	室内自由レク(人狼、お絵かき、トランプなど)
15:50～16:15	徒歩移動、仙台駅解散

※14:45～15:50の間仙台市生涯学習支援センターにて学生代表者三名、大人スタッフ三名、参加を希望された保護者六名にて、活動報告と交流会を実施。

① 集合

仙台駅新幹線南口に 9:45 前後になると子どもたちが続々と集まってきました。夏キャンプから約二か月ぶりの再会です。仲の良い学生や友達を見つけると嬉しそうに駆け寄る子もいます。また声変わりや身長伸びで成長を感じさせてくれる子もいて、学生も子どもたちとの再会を喜びました。

② 榴ヶ岡公園にて

榴ヶ岡公園に到着するとまずアスレチックのある場所で自由遊びをしました。学生が持参したボールやフリスビー、縄跳びやシャボン玉を使って、あるいはアスレチックやジャングルジムで、おのこの遊びを楽しんでいました。



↑集合している様子

↓シャボン玉で遊ぶ様子



↑フリスビーで遊んでいる様子

↓バドミントンで遊ぶ様子



そのあと、少し場所を移動して全体レクリエーションとして「三つ巴しっぽり」を行いました。

天気もよく少し暑いくらいで子どもたちは汗をかきながら走り回っていました。自分のチームの仲間を助けに行ったり、敵チームの学生の後ろに巧みに回り込んでしっぽをとったり、元気に走り回る姿が見られてとても良かったと思います。

「もうゲームやらないの？」という子どもたちの声も聞くことができました。

↓説明を聞いている様子



↓後ろに回り込んで…



昼食は外でお弁当を食べました。ちょっとしたピクニックのような形になりました。ご飯を食べながらいろいろな話をする、良い時間になったのではないかと思います。昼食後は移動の時間まで自由時間としました。サッカーやフリスビー、シャボン玉、大縄など、学年も男女も混ざって自分の好きな遊びをやりました。

③ 仙台市生涯学習支援センターにて

仙台市生涯学習支援センターに到着するとまず全体室内レクリエーションを行いました。バランスニューズペーパーと人間知恵の輪ゲームです。どちらも、自分の体を使う、誰にでもできる簡単なゲームです。

バランスニューズペーパーは折りたたんでどんどん小さくなっていく新聞紙に何人乗れるかを競うゲームです。学生が小学生をおんぶしたり肩車したり、ぎゅうぎゅうにくっついたり、みんなで知恵を出し合って新聞紙の小ささと戦っていました。



人間知恵の輪はチームのメンバーが手をつなぎ、手の下をくぐったり、跨いだりして自分たちで知恵の輪を作ります。これを敵チームがほどいていくというゲームです。

それぞれチームごとに個性的な知恵の輪が完成し、解く役になった子どもたちはなかなか苦戦していました。学生や中高生の体を作る巨大な知恵の輪の、中も外も縦横無尽にほどきまわる子どもたちの様子を見ているとなんだかおもしろく思えてしまいます。

室内レクリエーションの後は自由レクリエーションの時間となりました。

あらかじめ学生の手ってきた、トランプや人狼ゲーム、お絵かきセットなどを使って思い思いの遊びをしていました。中でも最近子どもたちの間でも人気の人狼ゲームには小学二年生から高校生、学生まで参加し、今までのキャンプ等ではあまり見られなかった交流になったのではないかと思います。

↓お絵かきの様子



↓子どもたちの絵



保護者交流会

今回は六名の保護者の方に参加していただくことができました。

ある保護者の方が「おなじみのメンバーね。」とおっしゃるように、アットホームな雰囲気です。室内で人間知恵の輪ゲームをする子どもたちや学生の様子を見て、「普段こんなに大人数で遊べないから、これはいいわね。」といった感想をいただくこともできました。

今夏キャンプのスライドショーや、うるまでのびさんのワークショップで作成した動画などを見ながら夏キャンプの様子をお話しました。そして子どもたちが夏キャンプから戻って、面白かったことをいろいろ話したり、逆に仲間と別れてとても寂しがったりしているなどのお話を聞くことができました。また子どもたちが震災のことをどのようにとらえているのか、保護者の方たちから見た様子を聞かせていただくこともできました。今回のよ

うな、こどもたちと一緒に生活している保護者の方との交流は、われわれがこどもたちと接するうえで、そしてキャンプを作っていくうえで、とても意味があるものだと実感しました。今後もこのような会を継続して開催できるようにしていきたいと思います。

④ 解散

保護者の方のお迎えがきた子から順番に帰っていきました。
盛岡、郡山のこどもたちは学生の引率でそれぞれ帰りました。

◎総括

今回の秋の交流会の大きな目的は、①体を動かして思う存分遊ぶ、②こどもたちの交流を深める、の二つでした。

①について：天候に恵まれたこともあり、公園でのレクリエーションや自由遊びで、体を十分に動かすことができました。夏キャンプや冬キャンプでの外遊びは、気候的な制約から、体調を見ながら制御せざるをえないことが多いのですが、秋というちょうどよい時期に交流会を開催できたことにより、心ゆくまで楽しむことができたのではないかと思います。また、室内レクリエーションにおいても適度に体を使った遊びをすることができたので、年齢学年関係なく楽しむことができた、よい企画であったと考えています。

②について：こどもたちの交流という面で見ると、室内室外ともに自由遊びの時間が効果的だったように思えます。小学生男子から中学生女子までのこどもたちが一つのボールでサッカーをやっている様子や、高学年女子と低学年男子が一緒になって大縄跳びをしている様子などが見受けられました。ある小学生の男子は「今度のキャンプは（中高生の）〇〇君と同じ部屋にしてね。」と帰り際に話していました。この自由遊びの経験は今後のキャンプの中でも取り入れていけるのではないかと思います。

今後も春・秋の交流会を継続して実施することでこどもたち、スタッフ、保護者の方たちの交流の場としていきたいと思います。また、別に報告しますが、この秋の交流会の前日、大学生有志は気仙沼などを訪問し、被災の様子を学ぶ機会をもちました。現地の方たちのお話を伺ったり、ボランティア活動を行っている宮城教育大学の学生と交流したりして、それぞれ強い印象を受けて戻ってまいりました。この数日の貴重な体験をこれからの活動に生かしていきたいと考えています。